



## 大阪IIゾンタクラブ3期目の会長をお引き受けして

会長 宮本典子



今年は急に寒さが来て、ナンキンハゼやケヤキが一斉に色づいて散りはじめました。御堂筋の銀杏の黄葉ももうすぐでしょう。

会長をお引き受けして半年、本当に早かったように思います。

歴史あるゾンタクラブのお仲間に入れていただいて5年目、大阪IIゾンタクラブも少しずつそのカラーがでてきたようです。私達のカラーは何でしょう、そのカラーを大切にしながら、育ててゆきたいと思います。責任の重さに身を引き締め、微力ながら誠意努力して参りたいと思っていますので、皆様のあたたかいご協力をどうかよろしく願いたします。

本年度の活動方針は、国際会長の目標にもありますように、“まず女性の地位” 私達はそれぞれ仕事があり、仕事を通して、自己を磨き女性の地位向上に貢献してゆきたいと思います。クラブはそのために役割を果たしたく思います。

そのため

1 ゾンタの精神、目的を大切にすること 会員全体がゾンタに精通する様つとめましょう (ワンポイントレッスンを企画しました)

2 会員相互の親睦を深めること

例会やゾンタの会合をみなが楽しめるようにしたいと思います。

楽しい卓話を みんなが発言できるよう (タイムキーパーの導入)

3 地区大会 台北 11月13~16日

エリアミーティング 高松 '98 5月17~18日

世界大会 パリ '98 7月19~23日 に参加しましょう。

4 奉仕活動に力を入れましょう 奉仕はゾンタの中心です。いろいろアイデアを出し合ひましょう。

フォスターペアレント 老人ホーム慰問 盲導犬 点字奉仕

ネパール眼科奉仕 販売グッズ

5 社会奉仕としての意義あるイベントを大阪IIの格調ある内容で持ちたいと思います。

'97 10.5 (日) フェニックスホール アジア女子留学生による民族楽器による音楽と交流会

'98年度 ロイヤルホテルで昼食付きのパーティ

'98 2月 講演会 ドーンセンター

大阪に緑を。ハクモクレン寄贈は続ける。各委員会活動費の増額。

6 会員を増やしましょう。

広報活動の充実に努めましょう。

7 姉妹クラブを作りましょう。

近隣のゾンタクラブの活動に積極的に参加しましょう。

このほかに、各委員会からのご提案についてこれから積極的に検討して参りたいと思います。

“ドナーシップ委員会” (仮) の設置。

“長期プログラムにのっとった基金の設置” などです。

個人としては、この機会に英語をもっとがんばろうと思います。





「世界に平和を!」、「心に差別と国境の無い世界を!」と謳われて久しいですが、この地上に於いて人種、宗教、その他様々な理由による紛争が絶え間無く引き起こされ、人々の苦悶は止むことを知りません。そんな中において私共の平和と国際親善への願いや憧れは大きくとも、如何に積極的に少しでもその使命を果たすことが出来得るかを考える時、己の微力と空しさを痛感させられることが多々あります。しかし私達はその思いを心に秘めた時、兎も角先ず第一歩を歩み出さなければなりません。手元にある書物を通して他の国々の人々の生活習慣や思想を理解することから始めてもよいし、またふと周辺を見回した時、大勢の外国の方々が既に日本に憧れて様々な分野で勉強や仕事をしておられるのに気が付きます。

幸い私の所には北京師範大学出身の曹霖さんという方が平成元年の一月からホームステイされており、曹霖さんを通じて大勢の中国の方々とお友達になることが出来ました。その間天安門事件もありましたが、彼もまた日本というフィルターを通して自国の様々なことに対して理解を深めていったに違いありません。曹さんは私共の所で約六年間滞在され、兄弟同然の親睦を重ねた後、上海に創設された日中合弁会社に就職し帰国されましたが、また来春今度は娘さんを留学させたいとの意向も聞いており、現在その受け入れ準備に取り掛かっております。私は常に海外の方を、特に近隣アジアからの真面目な留学生をお世話させて頂こうと心掛けておりますが、このような機会に恵まれ微々たる力ながらお役に立てることが出来て嬉しく思っております。

その中でも今回10月5日にザ・フェニックスホールに於いて大阪Ⅱゾンタクラブ主催による演奏会、「アジアからの調べ」を構成して頂いたメンバーは皆さん中国でも最高の音楽教育を受けられた向学心旺盛な方々で、夫れ々れプロの域に達しておられながら更に絶えず何かを得ようと惜しみ無く精一杯に励んでおられるその姿には、何時も頭が下がる思いがしております。

オープニングの美しいチベット民族衣装を着て歌って下さったバイマア ヤンジンさんはチベットで生まれ、四川音楽大学声楽科卒業後、北京中央音楽学校で研修され来日なさいました。現在は京都芸術大学大学院に在籍しながら公演活動をしておられますが、彼女の音量豊かな美声とその端麗な容姿には皆さん魅了されたことと思います。

「江河水」や「戦馬奮騰」、「荒城の月」等を奏でて下さっ

た二胡演奏者の劉鋒さんは福建省出身で国立北京音楽大学卒業、「民族楽器コンクール」、「優秀青年演員コンクール」、「武夷の春芸術祭コンクール」に入賞、「奇跡の二胡」と好評を博し、アメリカ、イギリス、スイス等多くの国々の首脳に接見、その音色と迫力、また繊細でスケールの大きい演奏には感動されたことと思います。

中国琵琶を引いて下さった閻木さんは大連生まれで、七歳より琵琶を学び百人中一人の難関、瀋陽音楽付属小、中、高を経て同音楽大学を卒業、遼寧歌劇団琵琶第一奏者として活躍、現在大阪教育大学大学院に在籍しながら阪神大震災に遭われた方々の慰問も含め精力的にユニークな演奏活動をしておられます。

エンディングで最後に「オペラ ジャンニ・スキッキより」他本格的に鍛えた美声を披露して頂いたのは台湾省出身で大阪音楽大学声楽科を卒業、オペラ「魔笛」他等に出演もされた経験を持つ李浩麗さんで、聴衆者の皆さん方は中国民族楽器による熟練した優れた技術による演奏や歌に深く感銘を受け心行くまで楽しまれたことと思います。

総括的にこの音楽会をプロデュースして頂いたのは、プログラムの弦楽五重奏「孤愁の島 OKINAWA」と「長江の落葉」を作曲された金士友氏で、彼は吉林省芸術団作曲・指揮者を歴任、日本では東京芸術大学大学院修士課程終了後、現在千葉大学大学院外国人研修者として在籍しながら幅広く音楽家留学生の纏め役として御世話をされており、彼の指揮の下に有能な民族音楽家達が伝統的な、また全く新しい試みに挑戦しながら演奏活動を続けておられます。

当日は演奏会の後、出演して頂いた皆さん方とゾンタクラブの有志の方々とて親睦を兼ねて会食をしましたが、お互いに理解し友好を深めることは、その和やかな雰囲気から心に日頃の一抹の不安から解放され、希望の明かりが灯されたような気が致しました。今回演奏会に参加して下さった皆さん方は夫れ々れの道の芸に秀でておられるだけあって人間としても非常に洗練されており、常に学ぶことに真摯で意欲的で、その熱心で純朴な姿勢から私共も大いに得ることがあったと思います。

私共もこれからも機会がある毎に進んで海外からの人々を暖かく受け入れる場を設け、理解を深め親睦を図りつつ視野を広め、身近な所から人類の平和と共生の為微力ながら貢献出来ればと願っております。

特別会計としてイベントに参加して

中塚 淳子



平成9年10月5日に、ザ・フェニックスホールに於て、大阪Ⅱゾンタクラブのチャリティーイベント、「アジアからの調べ」が行われました。アジアの留学生による民族音楽の演奏でした。二胡、琵琶、揚琴のみごとな演奏に会場は静まり返り、しばし異国情緒にひたる事が出来ました。最後に、出演者と会場の皆様共々に「四季の歌」の合唱により、なごやかな内に幕がおりました。317席の内







約290席の方々が出席して下さり、盛況の上、無事終了致しました。同日は天候にも恵まれ、コンサートにふさわしいさわやかな日となり、御来場下さいました方々の道中も心軽いものであったと思います。川嶋会員の紹介による今回の催し物でしたが、アジアの音楽、特に、チベット、モンゴルの音楽はメディアにも取り上げられ、人々の関心が出ている所でもあり、御来場下さいましたお客様方には深い感銘を受けられたようでした。私も少々お琴をたしなんでおりますが、曲想をあれだけみごとに「音」により表現されているその努力とセンスの良さに感心すると共に、遠い異国に母国の文化を広めて行かれる留学生に応援をさせていただけた事をうれしく思いました。私も今後もう一步 前進し、箏曲による日本文化の継承と伝授に努めて行きたいなあと思いました。そして将来、ゾンタの活動にも役立たせていただけたらと思いました。今回は25名の会員で、チケット販売数が273枚で、その他神戸、千里、奈良、大阪Iの各ゾンタクラブ様、アジアアフリカミュージック様が協力して下さいました。当日販売もあり、総計319枚を販売する事が出来ました。会場費、印刷代（パンフレット・チケット）、お花代、出演者の方々のお弁当、夕食代、及びその他雑費を相殺し、留学生様に、金、50万円を寄贈す

る事が出来ました。チケット料金が一枚三千元でしたので、買っていただくのに比較的に声がかけやすいと言う事もあったと思われます。会員の皆様には、スムーズに入金して下さい、会計担当者と致しましては、何の苦労もなく、無事にお役目を果たさせていただきました。ありがとうございました。今回は特に反省すべき点もなく、平穩無事に行事進行が出来ました。又、来年度のイベントに向け頑張っていきたいと思えます。そして、今後増々、ゾンタクラブが素晴らしい奉仕活動を展開し、世の為、人の為に役立たせていただければ無上の幸いと思えます。







昔はやった歌に「南国土佐を後にして」というのがあります。ベギー葉山さんが、ゆったりと大らかに歌われていました。歌を聞きながら「土佐って、どんな所だろう」「海に鯨がみえるのだろうか」など、想像したものです。何十年前のことです。その土佐の高知へ思いがけず、行く機会を得たのです。

今年8月、帰省客がピークに達するという、その日に空の便を取りました。大阪市内から続く伊丹空港行きの道路は、とても混むから…と早い目に難波を出た。同行の友人夫妻は以前この高速道路の渋滞に巻き込まれて、あわてて車から降りて荷物のかついで飛行場まで走ったという。まれなる経験の持主だったので、時間は十二分にみた。皮肉なもので、えてしてそういう時に限ってスムーズすぎる位スイスイと車は到着してしまっただけ。その上、飛行機は遅れた。前日の台風のせいでした。今年は台風の当り年ですね。それはそれとして、私はこの空港の雰囲気は好きです。国際国内線問わず、なにかウキウキするのは。混み合う人達がみんな、旅出つ前の不安と楽しさとに心を緊張させて、それが風のように私の心に通り抜けていくのでしょうか。ロビーを行き交う人々をながめながら、長い時間そう退屈もしないで、すごしました。

高知行き小さな飛行機は、台風後の雨の中をそうゆれる事もなく、飛び上がりました。機首を上げ、高度をぐんぐん上げてまいります。大空へ飛び上がるモズの様に。そして、アッという間に今度はどんどん急降下。高知ってそんなに近いんです。

高知では、丁度「よさこい祭」が始まった日でした。私は地元のある小さな研究会の人達にお招きを受けてまいりました。仕事が終ると、ウエルカムパーティです。大阪勢と高知勢との交流会。お世話役の田中氏が「土佐流の宴会を楽しんで下さい」とおっしゃった。もう、ワクワク。食卓いっぱい、名物カツオのタタキをはじめ大きな皿鉢料理がならべられていました。高知料理の特徴は、ゆずの香りっぱいのポン酢味です。お酒は勿論土佐の酒。土佐には昔から酒蔵の多いところでも有名です。呑んべえや喰いしん坊には、たまらない所でしょう。ほどよく盃も進む頃「さあ、このお盆に皆さんの盃を伏せてのせて下さい」と言って、お盆がまわされた。何が始まるのだろうとドキドキして見ていた。「準備が出来ました。順番に盃を開けて行って下さい」と言われた。開けた盃に菊の花が入っていた人がそれまでに開けた盃すべてにお酒をそそぎ、呑みほさなければならぬルールだそう。土佐の菊盃というゲームだと教えられた。又、箸を使ってじゃんけんをする「箸けん」と言う威勢のいい遊びもご伝授して頂いた。土佐の言葉が又おもしろ

い。「キー」とか「チュー」とかとび交うのだ。「土佐弁は、ねずみ言葉と笑われるんよ」とご婦人の一人が言われた。男も女も豪快に楽しく酒を呑んで、料理を頂いた。

宴を楽しんだ後は、皆で街へくり出した。よさこいの宵祭りのメイン会場では、踊りのコンクールが催されていた。毎年、参加グループはそれぞれが新しい衣裳に新しい振付けで、競われるのだと言う。人垣をかき分けかき分け前へ進んで見た。壇上で踊っている人々が、間近にみえた。その姿は、真剣そのもので美しかった。

翌日は、市内観光だ。おきまりのはりまや橋を通過して、桂浜、竜馬記念館、高知城と案内して頂く。暑い暑い日だった。街の中央大通りにもどってみると、早くもよさこい踊りは白熱していた。「土佐の高知のはりまや橋で……」という、よく聞き慣れたあのゆったりしたテンポの曲が、非常に激しいリズムの踊りに変わっていたのに少々驚いた。鳴子を両手に持ち「よっちょれ、よっちょれ」と、相の手を入れる。威勢よく、情熱的に踊りがくり広げられる。総勢13,000人の人達が、ただ夢中で踊る。昨夜のコンクールで優勝したのであろうか、胸からメダルをぶらさげて誇らしげに踊っている人達が輝いてみえた。

軽快で、激しい鳴子のリズムと土佐の人達にしていだいた心からのおもてなしに感動し、南国土佐を後にした。

夏の思い出が、又一つ増えた。  
「よさこいの鳴子がひびく土佐の夏 道子」







国際ゾンタ26地区エリアI、第22回エリアミーティングは、1997年5月9日(金)～10日(土)1泊2日の日程で、古都奈良の橿原ロイヤルホテルに於て開催されました。札幌で開かれました前回のミーティングに引き続き、私は2回目の参加です。

開会式では、ゾンタオフィシャルソングの斉唱のあと、物故者への黙祷があり、私をゾンタへ導いて下さった大阪Iゾンタの酒井式子さまに、深い悲しみをおぼえながら感謝の黙祷をいたしました。

今回のミーティングには、国際会長ジョセフィン G クックさんも出席され、国際会長として日本のゾンシャンに接することの喜び、ゾンタが専門職の人を通じて世界平和を願う民生的な決断のもとに運営され、ミーティングもまた成功のうちに終ること、そして「ビジョンの実現とすべての女性に平等を」のスローガンの再確認をしましょうと力強い挨拶がありました。また、ガバナーのエミーライさんも大変活動的なエリアIに対する期待と、互いにベストを尽くしてゾンタへ捧げる愛と奉仕の精神で26地区を作り上げる努力をしましょうとの挨拶を受けました。その後、地区アワードの贈呈では、永年人権擁護にかかわられた功績をたたえられ大阪Iの佐々木静子さま、創立以来の盲導犬育成への援助に対して東京IIゾンタクラブ、またセントルイス国際大会での核兵器の廃止と世界平和のアピール活動に対して広島ゾンタクラブが各々賞を受けられました。

そして、アメリカ・イアハートの授賞では、東海大学大学院工学研究科航空宇宙学専攻の石本早霧さん、香川佳代さんの二女性に贈られ、おごそかな中にも未来の若いお二人への期待とともにとても感動した贈呈式でした。航空界で初の女性パ

イロットが出現している今日、彼女達の研究活動がますます輝くものとなりますように。

11月15日付の朝日新聞には「宇宙で働いてみませんか」…こんなタイトルの記事が掲載されていましたが、このアメリカ・イアハートの基金が今後もゾンタの大きな柱として存続していくことを確信する今日この頃です。

ビジネスセッションでは、数多くの議事の中でもエリアIの分割に関する討議が長時間にわたってくりひろげられました。エリアミーティングに期待するのは、今回地区アワードを受賞されたゾンタクラブの活動がどのようなものか、ビジュアルなものも含めて紹介されたら若い私達クラブには参考となり、また大きな励ましになったのではないかと思います。そうしたこともトレーニングのように考えます。

夜の懇親会はホストクラブ、奈良ゾンタの皆さまのハンドベルのすばらしいハーモニーに身も心も酔ってしまいました。

さあー、またゾンタの活動を一步前進しましょうネ!



## 特別養護老人ホーム「泉ヶ丘園」を訪問して

久岡 眞佐代



平成9年5月29日、奉仕委員会の企画により大阪府泉佐野市にあります社会福祉法人泉ヶ丘福祉会を見学しました。参加者は、宮本、川嶋、田中(淑)、徳光、幡山、久岡の6名で、施設見学と懇談で約2時間余りを過ごしました。

施設の回りには民家は殆どなく、川あり、田畑ありの緑豊かな田園地帯に囲まれ、老後をのんびりと暮らすには最適な環境でした。保育所も経営されていますので、保育所と老人ホームとの行事を通じて心暖まるふれあいもあるそうです。最新の入浴設備、ショートステイ用のホテルの個室のような部屋など、多様な在宅福祉サービス施設が完備されていました。介護保険法の成立に向けて、介護サービスを受ける在宅ケアの施設が着実に建設されていることに心強くなりました。

経営者の方は、若くしてご主人を亡くされた女性で、幼い3人の子供を育てながらできる仕事として、最初は保育所を経営され、その後は、敷地を買い足して特別養護老人ホーム、在宅サービスなどの総合的な福祉施設に発展させたという情

熱的で活発な肝っ玉母さんでした。

老人ホームで暮らす高齢者、障害者の方々の一生懸命に生きる姿に教えられ、さらに最近は福祉を生涯の仕事として老人ホームに就職を希望する若者が多いと聞いて、しっかりとした考えの若者も確実に育っていることを知って嬉しくなりました。

日本は世界一早いスピードで高齢化社会に進んでいます。2015年には総人口の4人に1人が高齢者となります。高齢社会白書の高齢者に対するアンケート調査によりますと、老後の不安感は何かという質問に対する回答は、次のとおりで、日本、韓国、アメリカ、ドイツも同じでした。

1位 「自分自身の健康への不安」

2位 「介護が必要になるのではないかと不安」

それに対して、老後における子供や孫とのつきあい方については日本、韓国の1位は「いつも一緒に生活できるのがよい」でしたが、アメリカ、ドイツの1位は「ときどき会って



食事や会話をするのがよい」でした。日本は、アメリカ、ドイツと対照的で、老後は家族と一緒に暮らす、家族が介護をするという意識が強いという結果となっています。しかし、昭和55～60年代に比べると「老後は家族と一緒に」は減少の傾向にあるそうです。

さて、皆様は老後は誰とどこで暮らしたいでしょうか。私の祖母は専業主婦であった娘4人と長男の嫁の5人の女性の手厚い介護を受けながら、自宅で92歳で亡くなりました。最も幸福な幕引きであったと思います。できたら私の母や夫の両親もそうしてあげたいと思います。

しかし、私が65歳になる2015年、おそらく家族だけに介護させることは大きな犠牲をしいることになるでしょう。私は、これまで福祉の世話にならずに豊かな老後を送るためには貯

蓄と健康が大事だと思っていましたが、これからは介護保険の保険料を払ってれば誰でも保険給付（介護サービス）を受けられるという権利をしっかりと活用したいと思うようになりました。もはや介護は貧しいから受けるものではなく、憲法で保障された個人が人間らしく生きていくために要求できる権利なのです。

いずれ介護を受けなければ生きていけなくなったとき、人に任すしかなく、そのときは、抵抗なく他人の介護を受けられるよう、今から「人とうまく関わっていける心豊かな明るいおばあさん」になれるよう、心の準備をしていきたいと思っています。

泉ヶ丘園を訪問して、安心して入居できるホームと心の準備があれば老後は安泰だと元気になって家路につきました。

## 千里ゾンタクラブ認証状伝達式に参加してー

村山 啓子



千里丘陵一帯が新緑めぐる五月八日、夕刻より万国博記念迎賓館にて、千里ゾンタクラブ認証状伝達式が執り行われ、日本で38番目、世界で1560番目のクラブとして発足されました。

当日は、迎賓館の名木「しだれ桜」が満開と楽しみにしておりましたが、あいにくの天候、春の嵐とも申しましょうか、千里迄の道中はひどい雨と雷、稲光（イナビカリ）……。それでも会場に着きますと顔なじみの大阪Ⅰの先輩の方々が、晴れの日にふさわしい笑顔でお揃いになっておりホッと致した次第でした。

認証式は、司会をされた会員の青木小夜子様（フリーアナウンサー）の華やいだ第一声でオープニング。ゾンタソング斉唱、来賓紹介、ジョセフィンクック国際ゾンタ会長挨拶、エミーライ地区ガバナーより認証状伝達、SOMクラブである大阪Ⅰ会長伊藤美智子様の設立経過報告、河野会長挨拶、24名の会員紹介、そして横山ノック大阪府知事など来賓祝辞と

格調高く進められました。

二部の祝賀晩餐会は、祝舞、みのお太鼓と盛大にくり広げられ、200名近い全国のゾンシャンが各々のクラブの情報を交わしたり和やかな一時を過ごしました。

当日とりわけ感激致しましたのは、はるかニューヨークよりジョセフィンクック会長がご臨席になられたことで、千里ゾンタクラブは発会に当って大いなる名誉を得られた様に思えます。会員の中には、私達大阪Ⅱクラブより移籍されました笠置さんの他にも数名私の知人がおられ、大阪府下の三クラブが和し協力しゾンタ精神を培って行くことが肝要かと存じます。

SOMクラブの大阪Ⅰクラブの方たちが費やされましたご努力とご熱意に敬意を表しますと共に、千里ゾンタクラブの今後の大いなるご発展を心よりお祈り申し上げて、報告とさせていただきます。







ゴージャスなホテルに泊まって日常を忘れ、一日貴族の気分になろうーそんな思いで八月二日午後白浜に向け出発しました。日頃忙しいメンバーですので当日も各自のスケジュールで出発、現地のホテル川久で集合ということになりました。もともと、この時期に白浜で夏期講座をされる予定の宮本さんの「しばらく白浜に滞在するので一度川久に泊まりたいわ」という発案から、この夏休みの一泊旅行が計画されました。あいにく夏休み真っ盛りで既に旅行計画のある方が多く、参加者は宮本、西、牛田その他友人二人の計五人でしたが、楽しいひとときを過ごしました。夕方五時頃順次ホテル川久に到着した我々は、三部屋に分散しました。同じ内装の部屋は一つもないというホテルで早速お互いの部屋を訪問。同じツインサイズの部屋ながら宮本さんの部屋は南アメリカコロニアル調インテリア、西さんの部屋は赤を基調としたメルヘン調、私の部屋はシックで落ち着いたムード…と宿泊者の個性

とは必ずしも一致しませんがどれも素敵なインテリアでした。広さもゆうに2LDKのマンションほどあり調度品も凝ったものでした。

専用エレベーターでゆく大浴場は、壁面に中国風の絵や書が描かれ由緒のあるものと聞きましたがいい気分がゆっくり湯舟につかっているうち、のぼせてそのいわれもすっかり忘れてしまいました。

夕食は日本料理、西洋料理とお寿司がありどれもとても美味しいということでした。我々は日本座敷でお風呂あとの冷たいビールやウーロン茶でまず乾杯。あとは芸術的な日本料理を賞味し、話題も同じく高尚に、といいたいところですがそれはいつもの調子で大いに食っちゃべって（食う十喋るの合成語）白浜の夜は更けていったのでした。

まさに気分だけは「城主の奥方」の一日でした。



## 新入会員紹介『始めまして...』

村橋 紗知



画廊を実家のビル内で妹と始めてから、ちょうど十年になります。今は企画の催し、貸しの催し、作品の常設展示の仕事で以前より忙しくなり、家族に迷惑をかけることもたびたびで、家事と仕事の両立の大変さを痛感しています。現在のように忙しくなるまでは、家事と育児のかたわら、自分がしたい活動をしてきました。

長男が幼稚園に入園してすぐに友人に誘われたことがきっかけで、幼稚園・小学校のPTAコーラス部に入部しました。それまで、未経験の私は、初めて、みんなで歌うことの楽しさ、ハーモニーを美しく仕上げていく素晴らしさを知りました。まだ赤ん坊だった娘を連れて、熱心に練習に通うようになり、娘は部員の歌声を聴きながら、ミルクを飲んだり、離乳食を食べたり、体操のマットの上で眠ったりして、部員の方々に可愛いがられ成長していきました。また、“食”の大切さを思い、より安全な食品を追求する生活協同組合に加入しました。商品を共同購入するだけで

なく、当時は生協運動に賛同し、少し大きくなった娘と共に色々な勉強会や委員会に参加して活動しました。その頃には、PTA活動もしないといけなくなり、多くの方々との出会いから色々と学ばせていただいたように思います。仕事を始めてからは徐々に、それらの活動が出来にくくなり、多くの展覧会に出向くことで時間を要するようになりました。

子供達も成長し、各々の活動で忙しく、家族で一緒に行動することが少なくなってしまいました。大学二年生の長男が大阪を離れ下宿してしまっただけ、今は、中学三年生の娘と主人との三人の生活になりました。時折、休日に三人で、自宅近くの大坂城公園に飼い犬と散歩に出かけます。各々が忙しい状況で、帰宅すればほっとするような家庭を理想に、無器用ながらも心がけて努力しているつもりですが、今のところ、大役を果たしているのは、家族のアイドルである黒柴犬のようです。





「おおさか ふれ愛 夢づくり」をスローガンに、さわやかな秋晴れの中、豊中市千里体育館で、なぎなた競技会が開催されました。「なみはや」の「なみ」は水の都大阪を「はや」はスポーツの躍動感をイメージしており「なみはや」は日本書紀に大阪湾の潮流を意味するものと記述されているそうです。

なぎなた競技は、財団法人全日本なぎなた連盟理事長をはじめとする競技会役員218名、競技役員、補助員167名、競技会係員、競技会協力員、等々、読み上げて行けば、原稿用紙が何枚にもなると言う程、大勢の人達で作り上げた、文字通りの国民体育大会でした。

私も競技役員のひとりで娘も競技補助員で参加しました。

なぎなた競技には、試合と演技の2つがあり、試合は防具を身につけ、定められた部位を互いに打突して勝負を競う競技で、演技は防具を身につけず、指定された形を2人で対になって行ない競います。

なぎなたの長さは、全長2.10m～2.25mで重量は650g以上。コートの広さは12m四方。試合時間は3分、延長2分です。

自分のペースで戦えた時は良いのですが、相手が優位にたつて試合が進行している時は気が遠くなりそうに長く感じるでしょうネ。

試合中に、なぎなたが折れる事もしばしばあります。

演技はしかけ「仕かけ」とおおじ「応じ」にわかれ、対

になり2人で演じるので「和」が大切です。息もぴったり合わなければなりません。

私がなぎなたを始めたのは、娘の稽古の送り迎えをされていて、気がつけば、なぎなたを手にしたのです。私の年代では、国体選手のような早い打突や足の運びは無理ですが、「礼に始まり礼に終わる」といった武道としての原点を忘れず、なぎなたの理念、指導方針をつねに頭に置き心して、自分の宝を磨き出せるよう稽古に励んで行きたいなと実感したのが国体の感想です。ただあてっこになっているように見えたのです。

私と娘の所属している茨木なぎなた連盟では、師範や指導者を置かず「人の上に立たず」皆が交替で号令をかける。初心を忘れず、誰でも最初があったはず、と。そしてゾンタの「親愛」「友愛」の心を持って前進して行ければ理想です。



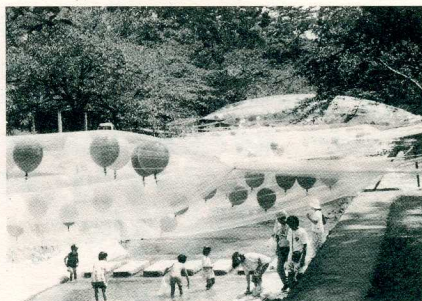
## 夢と希望の風船

西宮芸術文化協会会員 飯島 恵里



色とりどりの気球を揚げ、夢と希望で、被災した重い心を軽くしたいと、8月2日西宮市の夙川公園で野外イベントが繰り広げられた。夙川の野外イベントは平成二年から始まったが、震災の影響で二年間取りやめられていた。三年ぶりに大震災からの復興をアピールしようと、西宮市の芸術家が所属する西宮芸術文化協会が、特製の気球と風船を使ったモニュメントを制作し、夏空に浮かんだカラフルな気球で、川面を彩った。この計画は、今春より進められ、何度も実験を繰り返し、当日を迎えた。幸い天候にも恵まれ作業は順調に進んだ。気球(エコ・バルーン)は長さ7メートルのポリ袋(ゴミ袋)を使用。この中にヘリウムガスを入れ、色とりどりの風船を80個ずつ入れ、5メートル間隔で約100メートルの川面に浮かぶ様に飾る。エコ・バルーンとは、リサイクルによるエコロジーと、安価なイベント、エコノミーを掛け合わ

せたネーミングである。川の兩岸をまたがるブリッジ型は、復興への希望を込めた「明日に架ける橋」。川面から縦長に立てたエレクト型には黄色の風船だけを入れ、「幸せの黄色いハンカチ」をイメージし幸福を表現した。ほかにアーチ型、ソーラ型と、それぞれの願いのこもったバルーンが、河川敷を飾った。通り掛かった親子連れなども気軽に参加し制作を楽しんだ。「復興を進め、幸せを取り戻したい」と言う皆の思いが一つになったさわやかな夏の日であった。



## 編集後記

第三期広報委員の初仕事。

書かぬなら、書かせてみよう原稿を！

書かぬなら、書くまで待とう原稿を！

決して信長にはなりません。